

武庫川女子大学教育研究所・昭和女子大学現代教育研究所共催
「特別の教科 道徳」小学校・中学校全面実施 緊急フォーラム

於 武庫川女子大学メディアホール

誰もが「特別の教科 道徳」の授業を 効果的に行うためのポイント

武庫川女子大学 押谷由夫

話の大筋

- 1 新教育課程と道德教育
- 2 学級づくりと道德授業
- 3 「考え、対話し、自己の生き方を深める」 道德の授業の工夫
- 4 道德の教科書を多様に活用しよう

1 新教育課程と道德教育

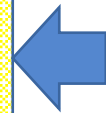
1-1 新教育課程をリードする道德教育

・新教育課程のポイント

1. 3つの資質能力の育成
(知識技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力)
2. 主体的・対話的で深い学び
(アクティブ・ラーニング)
3. カリキュラム・マネジメント
(社会に開かれた教育課程)
4. チーム学校
(地域や専門機関と連携し学校課題に取り組む)

・道德教育のポイント

1. 人格の基盤となる道德性の育成
(モラル・アクティブ・ラーナー)
2. 「特別の教科 道德」が要の役割
3. 考え、議論(対話)する道德
4. 子どもたちのよさを伸ばす教育
(よさを評価し励ます)
5. 学校教育の中核としての道德教育
(カリキュラム・マネジメント)
6. 社会的・個人的課題への主体的対応
(総合道德)
7. 学校、家庭、地域連携
(チーム学校)



1-2 新教育課程で求められる資質・能力の三つの柱 —モラル・アクティブ・ラーナーを育てる—

- 等)
- ① 「何を知っているか、何ができるか」 (個別の知識・技能)
 - ② 「知っていること・できることをどう使うか」
(思考力・判断力・表現力)
 - ③ 「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」
(学びに向かう力、人間性等)

すべての学びが人間としてよりよく生きることへと方向づけられることが大切である

つまり、モラル・アクティブ・ラーナーを育てることが目標となる
(そのための学びが、モラル・アクティブ・ラーニングである)

1-3 道徳教育における アクティブ・ラーニングのポイント

● 心をアクティブにする

● 頭をアクティブにする

● 体をアクティブにする

心のアクティブ化を中心に頭と体をアクティブにするのが
モラル・アクティブ・ラーニング

1－4 道徳教育における カリキュラム・マネジメント

1－4－1 カリキュラム・マネジメントのポイント

- (1) **明確な目標（行動目標）を設定**すること
- (2) **教科横断型のカリキュラム**を組むこと
- (3) **具体的な実施計画**を立てること
- (4) 開かれたカリキュラムの視点から**社会的資源（教材等）と
人的資源（協力者）を確保**し位置づけること
- (5) **実施に向けての体制（組織）を整える**こと
- (6) **定期的に評価し改善を図って**いくこと
- (7) **研修を計画的に位置づける**こと

1-4-2 道徳教育の全体計画のポイント

- (1) 具体的行動目標が明記されているか
- (2) 各学年段階や各学級の道徳教育の全体計画へとつなげているか
- (3) 各教科等の年間指導計画につなげているか（道徳教科書の活用も）
- (4) 学校、家庭、地域の連携が組織的に取り組めるようにしているか

（道徳教科書の活用も）

- (5) 環境整備も明記されているか
- (6) 一人一人への配慮について具体的に書かれているか
- (7) 研修計画も明記されているか

※ 全体に「チーム学校」を具体化するように工夫する必要がある。

1-4-3

「特別の教科 道徳」の年間指導計画のポイント

- 採択教科書の提案する年間指導計画をベースとしながら、**地域特性や学校特性、子どもの実態等を考えて主題配列**を学校独自のものにしていく
- **郷土教材や学校開発教材**をどのように位置づけ活用していくかを工夫する
- 教科書の重点指導を踏まえながら、**各校独自の重点目標**も考え指導を工夫する
- **関連する教育活動**については、特に**関連させたい教育活動については明確に示す**
- 特に重点的に指導する内容項目については**別紙**に示すことも考えられる
- **学期や年間の学びを振り返ったりする時間**も確保したい

※ 年間を通してすべての内容項目から自分を調和的に見つめられるようになることが大切

1-4-4

カリキュラム・マネジメントの視点から 求められる道徳の学習指導案のポイント

(1) 目標（ねらい）を明確にする

道徳授業のねらいは二つを考慮する必要がある

①道徳授業を要として取り組む目標

（教材が決まる前の目標）

②道徳授業に焦点化した目標

（教材の活用や授業展開を考えた目標）

(2) 評価の観点を明確にする

①子どもたち一人一人のねらいに関わる育ちを見取る

②授業の指導過程について評価する

(3) 授業の前に押さえておくべきことを確認する

- ①以前の授業や関連する教育活動など
- ②事前に取り組んでおいた方がよいことはあるか
(事前に読んでおく、アンケート調査、調べ学習等)

(4) 事後に押さえておくべきことを確認する

- ①一人一人に対して事後に取り組むこと
(個別的指導、ノート指導など)
- ②学級全体に対して事後に取り組むこと
(教室に教材等を掲示して機会あるごとに話題にする、例えば金曜日の朝の時間を道徳タイムにしてその週の道徳授
業
のあとで考えたことや取り組んだこと実感したこと等を話し合う、等)

(5) 子どもたち一人一人が自己評価できるようにする

①各授業ごとに自己評価できるようにする

(自己課題や自己指導についても記入できるようにする)

②一定期間ごとに全体の自己評価ができるようにする

(全体的視点から自己評価、自己課題の把握、自己指導を考えられるようにする)

(6) 授業が終わった後、授業を振り返り、学習指導案を修正する

①日々の授業において修正案をメモしておく

②研究会のあとも、修正案を創って記録にまとめる

2 学級づくりと道徳の授業

2-1 学級づくりの基本

(1) 環境の整備

- ①机・いす、床、掲示物、雑巾、個人ボックス、装飾物
(掃除の指導とも係わらせる)
- ②黒板やホワイトボード
(きれいにするだけではなく、メッセージ等を)
- ③靴箱の整理 等

(2) 学級目標づくり

- ①教師がどんな学級にしたいかを明確にもつ
- ②みんなで学級目標をつくる
- ③学級目標に係わる個人目標をつくる
- ④道徳の授業で常に学級目標を意識させる
- ⑤学級目標に係わる豊かな体験活動をみんなで考え取り組む

(3) 学習習慣の形成を図る

- ①姿勢の指導
- ②話す、聞く、書く、の心構えとスキルの指導
- ③話し合い、協同学習のスキルの指導
- ④ノート指導
- ⑤予習、復習の励行
- ⑥学習習慣の形成にかかわり、道徳の授業を要として学級活動や様々な学習活動と関連づける

(4) 一人一人への配慮

- ①誕生日を祝う
- ②掲示を工夫する
- ③一人一人に全員からの感謝やよさのメッセージをもらえるようにする
- ④困っている子がいればみんなでサポートするようにする
- ⑤ノートや日記の指導
- ⑥毎日必ず全員に声をかける

(朝一番に教室に行ったり、毎日名簿に話した人に○を付けて確認する)

(5) 学級の成長を意識できるようにする

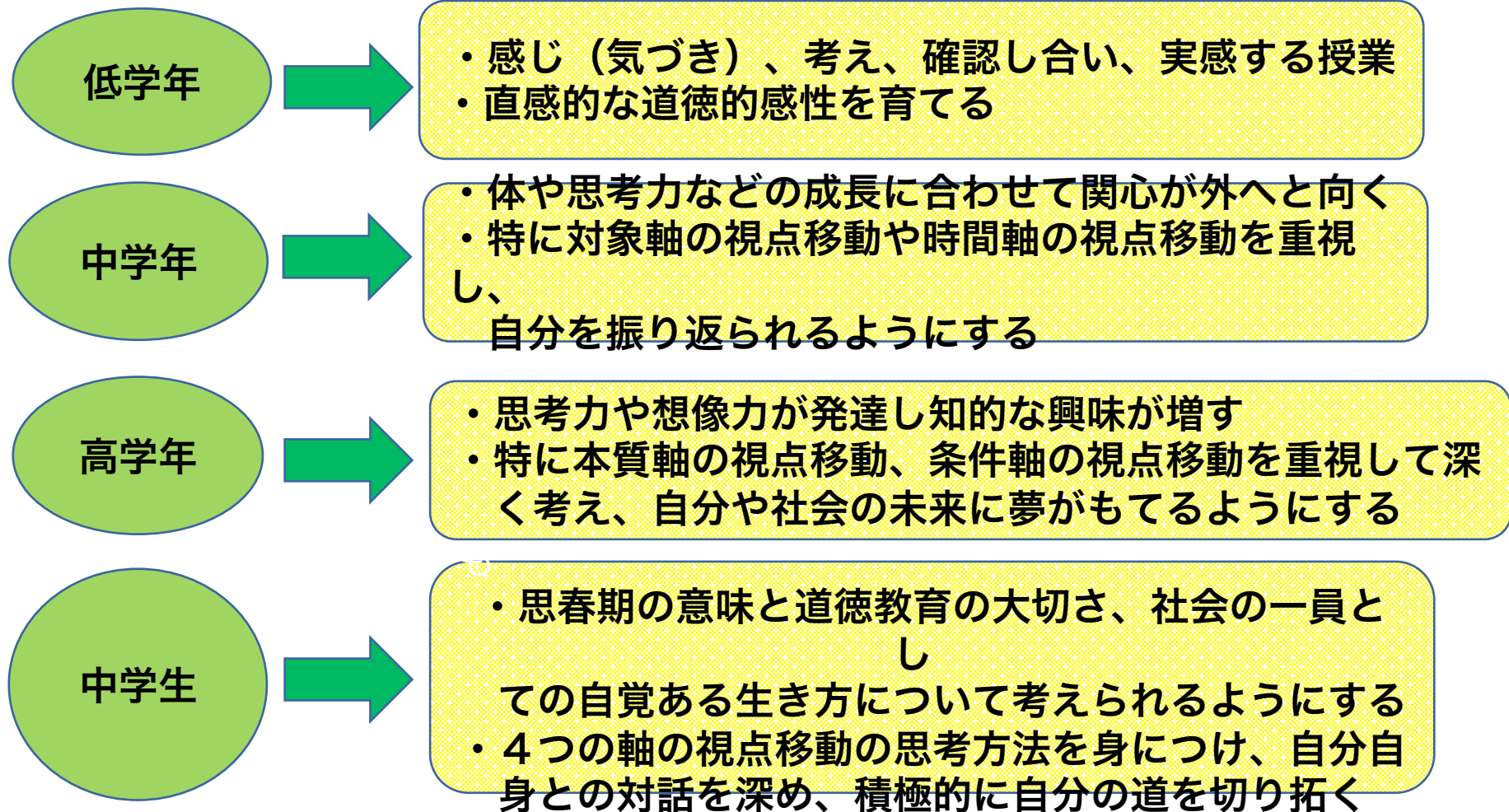
- ①学級だよりを発行する
- ②教室や廊下に道徳コーナーを設ける
- ③学級の足跡が分かる掲示を工夫する
- ④グループ日誌などを工夫する

2-2 道徳ノートの工夫

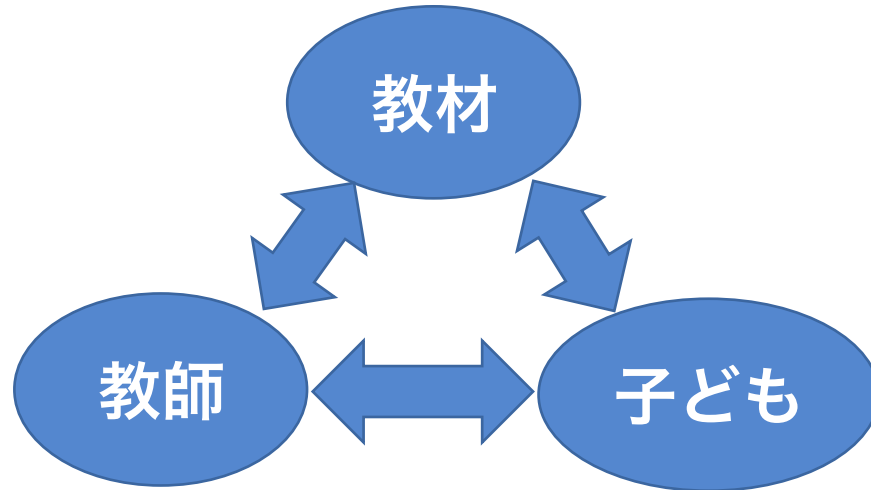
1. 事前の学習のスペースを取る
(いつも何らかの課題を出す)
 2. 授業で自由にメモできる頁を1頁取る
(自由にメモできるようにする。板書に関する記述も)
(その頁に後で板書の写真やプリントも貼れるようにする)
 3. 中心発問に関する記述のスペースを取る
(友達の見解で参考になったことなども書くようにする)
 4. 自分とのかかわりで記述するスペースを取る
(そこから自己課題を書けるようにする)
 5. 今日の授業の自己評価項目を示し評価ができるようにする
 6. 事後の学習を記述するスペースを取る
(自己課題の追究や事後に気づいたこと取り組んだことなどを書く)
(3, 4, 5, はワークシートに記入し、授業後にノートに貼ってもよい)
- ※ 学期の終わりに学んだ全体を振り返られる頁を創っておくこともポイント

3 「考え、対話し、自己の生き方を深める」 道徳の授業の工夫

3-1 発達段階に応じた指導の工夫



3-2 教材研究の基本



- ※ 道徳の授業は教材を媒介にして教師と子ども、子ども同士の心の交流を図ることが基本
- ※ 子どもたちが教材から何を感じるかと同時に**教師が何を感じるかが大切**

3-3 学習指導案作成のポイント

教材から自分自身が心を動かされる場所はどこか



それはなぜかを考える（道徳的価値が関わっているはず）



そのことに関してどのようなことを話し合いたいかをメモする



考えたことと、確認したいこと、伝えたいことを子ども
たちの心の動きや発言を予想して整理し、展開を考える



子どもたちが自らへの問いを深められるようにする



課題意識をもたせて授業後の学びへとつなげられるようにする
（併せて事前の学習としてどのような押さえが必要かを考える）

3-4 多面的・多角的に考える基本

—思考の視点移動をする—

- **対象軸の視点移動**

相手の立場に立って考える、第3者の立場で考える、自分の立場で考える等 (例「あなたが〇〇さんだったらどう思う」)

- **時間軸の視点移動**

以前のことを考える、これからのことを考える等
(例「このようにするとこれからどうなるだろう」)

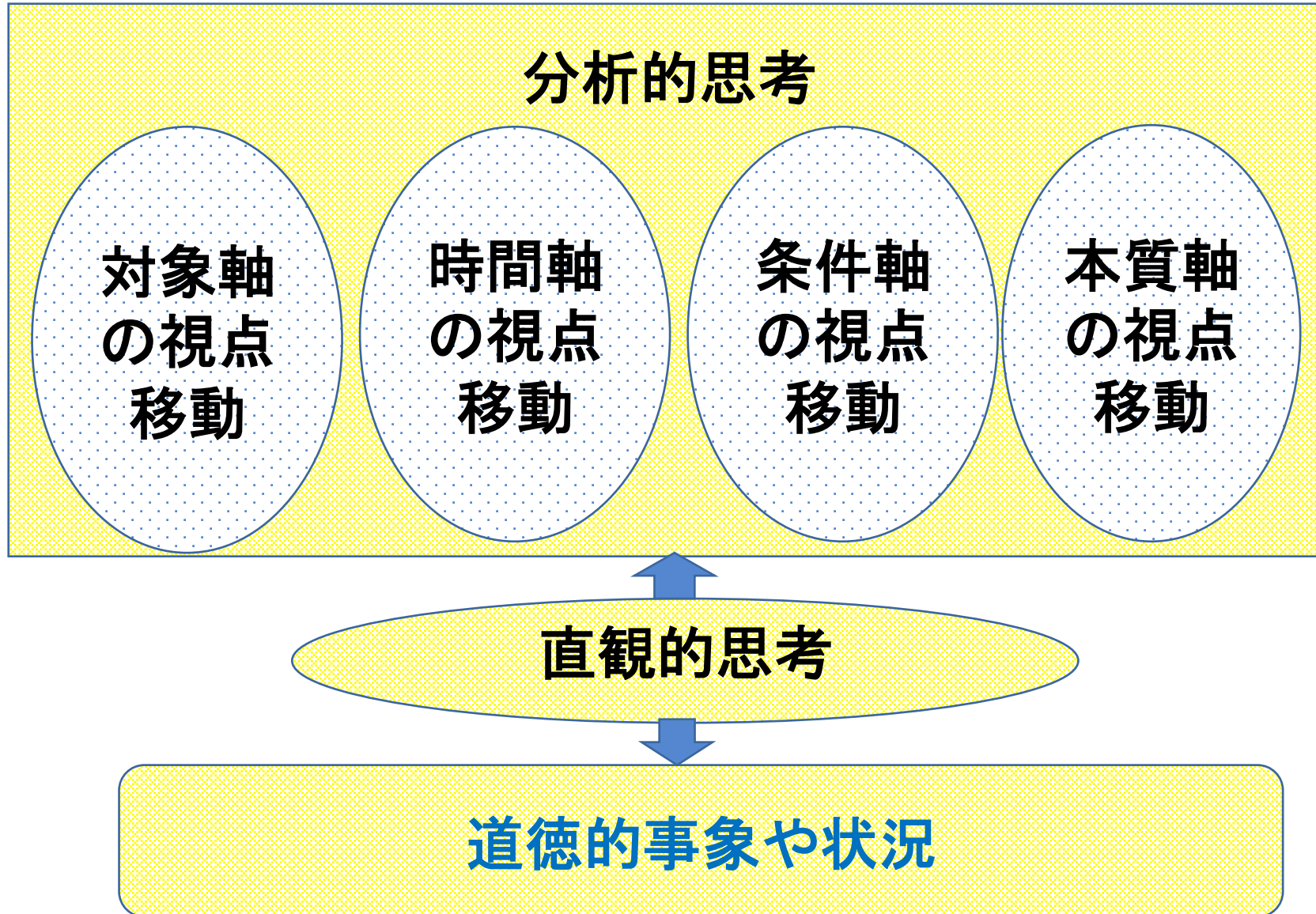
- **条件軸の視点移動**

条件や状況を変えて考える、仮説的に考える、比較して考える
等
(例「このような場合はどうなるだろう」)

- **本質軸の視点移動**

本質にかかわって問いかけを深めていく等
(例「それはどういうこと」)

多角的・多面的に考える基本 (視点移動のスキルを身につける)



3-5 多様な指導過程を組み立てる基本

★ 3つのキーワード（道徳的価値の理解、自己を見つめる、物事を多面的多角的に考える）を多様に組み立ててみよう。例えば

- ① 自己を見つめる1 → 道徳的価値の理解1 → 物事を多面的・多角的に考える1 → 道徳的価値の理解2 → 自己を見つめる2 → 物事を多面的多角的に考える2 → …
- ② 道徳的価値の理解1 → 物事を多面的・多角的に考える1 → 道徳的価値の理解2 → 自己を見つめる → 物事を多面的・多角的に考える2 → …
- ③ 物事を多面的・多角的に考える1 → 道徳的価値の理解1 → 物事を多面的・多角的に考える2 → 道徳的価値の理解2 → 自己を見つめる → … 等々。

※ これらの三つの組み合わせを事前や事後も含めて、また2時間続けたの授業、他の教科等と連携した授業などとも組み合わせて考えていきたい

三つを調和させる中で次のような授業も多様に組むことができる

「道徳的諸価値の理解」に特化した授業

- ・ 重点的な内容項目を複数回で指導する場合、最後をねらいに関わる道徳的価値についてじっくり語り合う授業を行う
- ・ 人間として生きるとはどういうことかを道徳的諸価値と関わらせて深く考える授業

「自己を見つめる」に特化した授業

- ・ 例えば、学期の終わりなどに、その期に学習した内容を振り返りながら自己を見つめ自己の成長と課題を見出し、自己指導へとつなげる授業を行う
- ・ 自己の内面を表現した詩歌などを元に、お互いの心の状態を深く考える授業

「物事を多面的・多角的に考える」に特化した授業

- ・ 具体的な道徳的事象や状況に対して本質知と方法知をもとにどうすればよいかを深く考える授業

3-6 指導過程の工夫

3-6-1 導入の工夫

(1) 基本的には3つのパターンが考えられる

- 1 授業の雰囲気をつくる
- 2 ねらいに関する興味関心をもたせる
- 3 資料に関する興味関心をもたせる

2において、今日の授業のねらい（課題）を示す場合が多い

3においては、教材の提示後ねらい（課題）を示す場合が多い

(2) ねらいに関する興味関心をもたせる工夫

「特別の教科 道徳」の目標から考える (3つのキーワードを活用する)

1 道徳的価値の理解

- ・ 「きまりは何のためにあるのでしょうか」など取り上げる道徳的価値について直接問いかける 等

2 自己を見つめる

- ・ 「きまりを守ってよかったと思うことはどんなことですか」など、過去の自分を振り返る
- ・ アンケートなどでねらいに関わることに関する自分の意識を確認する 等

3 物事を多面的・多角的に考える

- ・ ねらいに関係する事象を取り上げ「このことをどのように考える」などと問いかける 等

3-6-2 展開の工夫

(1) 教材をもとにした話し合い

- ・教材の内容を理解するための簡単な図示も考えたい
- ・教材の中に入り込み、感じたこと思ったことを大切にする
- ・イメージを共有し中心場面で自由に話し合えるようにする
(ねらいに関わって深く考えられるように補助発問も工夫する)
(ペア学習や、グループ学習等も取り入れる)
(役割演技や様々な表現の工夫をすることも大切)
- ・出てきた考えを整理する
(まとめるというのではなく、いろんな意見があることを整理して分かるようにすることが大切)

(2) 自分との関わりで考えられるようにする

- ・ 整理された考えをもとに自分を振り返る
(自分とのかかわりで道徳的価値に関する意識を高めていけることが大切)
(その中で自分を見つめながら、ねらいにかかわる道徳的価値について新たな発見や確認ができるようにしたい)
- ・ その中で自己課題をその子なりにもてるようにする

3-6-3 終末の工夫

本時に取り上げた道徳的価値についての意識を温め、
事後の学びへとつなげる

- (1) 教師の体験談を話す
- (2) 教師が授業で感じたこと、うれしかったことなどを話す。
- (3) これからの学級生活でこのようにあればいいなあとか、学級目標などとのかかわりで願いを話す
- (4) 作文や、事例、名言、などを紹介する
- (5) これからの課題について話す
などが考えられる

※ 行為を押し付けるようにならないことが大切

3-7 自我関与を重視した授業の工夫

基本的押さえ

- ・ **すべての道徳授業の基本**
- ・ 自分とのかかわりを深めながら学ぶ
(子どもたちの心の動きを追いながら授業を行う)

主な方法

心が動くところを聞く

心が動くおもとを押さえる (どうしてそのように感じたのか)

状況に関して(背景も含めて)**道徳的価値に照らして多様に考える**

その視点から**自己と物事を深く見つめ自己課題**をもてるようにする

自己課題を意識し**事後につなげて**いけるようにする

3-8 問題解決的な授業の工夫

- 問題解決力の育成

本質知（どうしてそうなったのか）と

方法知（どうすればいいのか）の学びが大切

- 主な方法

1時間の授業の中で両方を絡ませて追究する

2時間続きで道徳授業で両方を考える

1時間を道徳の授業＋**1時間を学級活動**で取り考える

総合的な学習の時間と関連させて長期的に追究する

3-9 体験的な授業の工夫

・ポイント

体験を通して道徳的価値意識をより深く考えたり実感したりする
授業での学びを日常生活での実践につなげる

・主な方法

実際に観察して課題を見つける

実物に触れる

本人に出会う

疑似体験や役割演技をする

実際の場で考え感じ取る

実際にやってみてその行為の意味を考えまた行為の仕方を考える

授業後に日常生活で実感できるようにする

3-10 総合単元的道徳（総合道徳）学習の工夫

- 「特別の教科 道徳」が道徳教育の要としての役割を果たすためには、重点目標や社会的課題等に関して関連する教育活動や日常生活等を密接に関連させた指導計画を総合道徳（総合単元的道徳）学習として計画し、取り組んでいくことが必要
- 総合単元的道徳（総合道徳）学習においては、認知的側面、情意的側面、行動的側面について評価することもできる。
- 先生と子どもたちが日常生活をベースとして主体的に道徳教育を創っていくことができる（家庭や地域社会との連携も図ることができる）

総合単元的道徳(総合道徳)学習の計画

※ 「特別の教科 道徳」を要に関連する教育活動を計画的に連携させて道徳学習を計画する

教科	特別の教科 道徳	学級活動	総合的な学習 の時間、行事	日常的取組 (教室環境含 む)	子どもの心 の動き
(教科の特質 に応じた道徳 学習)	(道徳学習の要 として、道徳的 価値の自覚を深 める)	(実践的活動 を重視)	(調べる学習、 体験学習を重 視)	(掲示や朝 の会、帰りの 会でのたが やし、ノート への記入等)	(全体を通 してポイントになる学 習活動等に おける大き な子どもの 心の動きを 押さえてお く)

家庭や地域での学習

(家族にも協力してもらい、家庭でも目標や取り組みも書けるようにする。地域社会での活動も書く)

個人学習

(自分が心がけたい目標や計画を書く)

その他 (留意点等) (この学習用のノートをつくる)

3-11 板書計画の工夫

(1) 全体構成を考える

(板書計画は実際の授業を想定して何を考えてほしいのか、どう視覚化すれば考えを引き出せるのかを考慮して全体を構成する)

(2) 導入の問いかけに対する意見をまとめる

(アンケートや写真などの掲示も工夫する)

(3) 教材の内容のポイントを示す (内容が難しい場合は必要)

(登場人物の人間関係や直面している状況などを簡単に図示する)

(4) 課題を明記する

(ねらい的な課題と、教材から出てくる課題とがある)

(5) 授業の展開に合わせて板書する

(教材の内容に従って発問していく場合の板書と中心場面から板書していく場合がある)

(6) 子どもたちの考えや心の動きを図示できないかを考える

(矢印や心情線、心情図、チョークやマーカーの使用等)

(7) ねらいに関係する子どもたちの意見を整理する

(まとめるのではなくみんなの意見を整理することが大切)

(8) 整理した意見や考えをもとに自分を振り返るようにする

(自分振り返りタイムと書いた短冊を貼ることもよい)

(9) その内容を板書してねらいに関わる自覚を持てるようにする

(10) 自己課題を意識できるように板書を工夫する

(矢印等を使って日々の生活へと意識を向けていけるようにする)

(11) 写真に取ったり、簡単に清書して印刷し、道徳ノートに貼る

(板書計画を事前につくっておけば授業後簡単に清書できる)

(それを見ながら家でさらに考えて思ったことなどを記入するとよい)

3-12 授業の指導過程の評価

各指導過程において教師がねらいとした子どもたちの心の動きが起こっているかどうか、を評価することが大切。例えば

- ① **導入において**、子どもたちに本時の**課題意識**をもたせることができたか
(**道徳の授業では、導入に今日の学習に興味関心を持たせて教材の中から課題を見つけてそれを確認して進める場合もある。今日行う学習を明確にし興味をもって学べるようにすることが大切である。**)
- ② **教材提示において共感的に教材の世界** (話し合おうとしている状況) **に入ることができたか**
- ③ **中心発問において意図した子どもたちの心の動き**があったか
- ④ **みんなで考えたことをもとに自分自身を深く見つめる**ことができたか
(**価値理解や自分自身について新しい気づきや発見があったか**)
- ⑤ **終末で本時の学習に関して学んだこと考えたことを深く心に残す**ことができたか (課題意識をもたせたか)
- ⑥ **事後において、授業とかかわらせた言動が見られるか** など

※ 事前・事後の取組も含めて柔軟に考える必要がある

4 道徳の教科書を多様に活用しよう

魅力的な教科書がそろった

- ・ 中学校は来年から使用するが各社のホームページから感じ取れる
(各社のホームページも活用したい)

全部の教科書を活用したい

- ・ 採択できるのは1社であるが、他の教科書も是非参考にしたい

発展途上中の教科書

- ・ 学校現場からいい教科書の提案を行っていこう

多様な活用を工夫する

- ・ **日常的に**
- ・ **各教科や特別活動、総合的な学習の時間で**
- ・ **家庭や地域で**
- ・ **生徒理解や生徒指導、研修等で**

道徳教育を充実させることを通して

★信頼関係が増していく

(温かな心の通い合いが実感できる)、

★未来への希望や勇気がわいてくる

(自分の生き方において、社会のあり方において、さまざまな出会いにおいて)

ことが大切



志高く今を熱く生きる
子どもたちを育て
よう

